



伊豆諸島三宅島に生息する鳥類 8 種の生存期間

中野晃生*

中野自然環境調査事務所, 東京都文京区千石 3-37-10

はじめに

野生鳥類の寿命は、鳥類の繁殖など生活史にかかわる戦略（たとえば短命だが多く子を残すか、長命だが少ない産子数か、など）を理解したり、体サイズや代謝率と長命化あるいは短命化の関係といった比較生物学的な視点など、様々な側面から注目される要素である。鳥類の生存期間の情報を蓄積することは、鳥類の生態を解明するための一環として必要である。日本産鳥類の生存期間については、山階鳥類研究所(2002)が1961年から1995年までの標識調査の結果から、放鳥後5年以上経過したのち再捕獲された個体の生存情報の最長記録1例ずつを「長期経過後の回収例」として報告している。また、環境省が実施している鳥類標識調査事業における毎年度の報告書中に初放鳥後の経過期間が更新された記録のみが報告されている(e.g. 環境省 2025)。その他、日本産鳥類全般

の報告として、吉安ら(2020)が1967年から2017年の50年間に実施した鳥類標識調査の回収データ結果を整理し、再捕獲の記録のある種の上位2記録を日本産鳥類の生存期間として報告している。

本論文では標識調査の再捕獲・再確認情報から得られた鳥類の寿命について報告する。鳥類の寿命はその生活史戦略と密接に関連しており、島嶼という空間的・生態学的に制約された環境における鳥類の適応や生活史の理解を深める上で本報告は意義があるものと考ええる。

調査地及び調査方法

調査地は三宅島の中央部にある雄山の北西側の山腹(緯度 $34^{\circ}11'4''$, 経度 $139^{\circ}54'7''$)にあり、標高77mの地域である(図1, Fig.1)

調査地及びその周辺の環境は常緑広葉樹林となっている。樹林を構成している植物

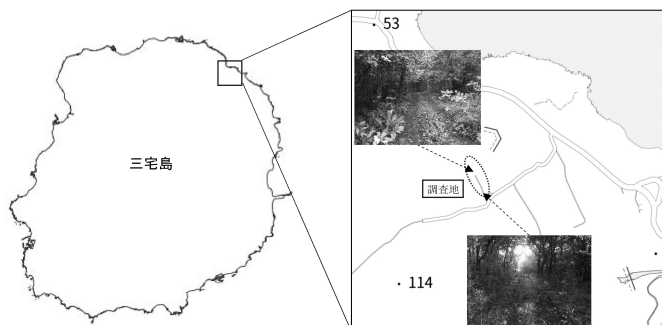


図1. 調査地
Fig. 1. Survey area

2026年3月19日受理

キーワード: 小鳥類, 生存期間, 鳥類標識調査, 伊豆諸島三宅島

*: YRX02037@nifty.ne.jp

は、高木層はスダジイ *Castanopsis sieboldii*, タブノキ *Machilus thunbergii* が優占しており, オオシマザクラ *Cerasus speciosa*, オオバヤシャブシ *Alnus sieboldiana*, テイカカズラ *Trachelospermum asiaticum* var. *asiaticum* などが生育している. 低木層から亜高木層はヤブツバキ *Camellia japonica* が優占しており, その他, オオムラサキシキブ *Callicarpa japonica* var. *luxurians* などが生育している. 林床にはほとんど植物の生育は見られないが, 一部にシダ植物やアオノクマタケラン *Alpinia intermedia* が生育している. 植物の種名及び学名は米倉・梶田 (2003-) に準拠した. 林内には幅 2.5 m ほどの未舗装の私道が通っている. 調査はこの道沿いに 36mm × 36mm メッシュ, 長さ 12 m のカスミ網を 4 枚設置し行った.

今回は 2015 年から 2025 年の 2 月～12 月に捕獲された 18 種 378 個体のうち 6 カ月以上経過後に再捕獲された 8 種 38 個体の生存年数について報告する. なお本稿における“生存年数”は, 初放鳥から再捕獲されるまでの年月とした. 2020 年は新型コロナウイルスによる疾病が流行っており, 島への渡航が難しかったため, 実施しなかった.

捕獲時の性・齢については, 山階鳥類研究所 (2009), Svensson (2011), を参考に羽色, 測定値, 繁殖期の総排泄口の形状 (オスは突出する), 齢については, 虹彩の色, 羽色, 頭骨の骨化の状況, 尾羽の形状, 幼羽の有無, ツグミ類については大雨覆先端の GC 斑等, オオコノハズクについては深井 (2017) を基に総合的に判断した. 性, 齢が識別できなかった個体については, 性不明, 齢不明, 性・齢不明として記録した.

また鳥類標識調査の実施に際しては, 山階鳥類研究所を通じて, 環境省の「鳥獣捕獲許可証」, 「国内希少野生動植物種等捕獲許可」, 東京都教

育委員会の「天然記念物の現状変更許可」を, 放鳥・回収データの使用には山階鳥類研究所の承諾 (許可番号: 山階保全第 7-95 号) を得た. 三宅村指定の天然記念物の現状変更許可については, 所管する三宅村教育委員会に確認し, 了承を得た.

結果と考察

本調査で対象期間中に再捕獲された種は, 捕獲数の多い順にアカコッコ *Turdus celaenops*, メジロ (亜種シチトウメジロ) *Zosterops japonicus* (*Z. j. stejnegeri*), ヤマガラ (亜種: オーストンヤマガラ) *Sittiparus varius* (*S. v. owstoni*), コマドリ (亜種: タネコマドリ) *Larvivora akahige* (*L. a. tanensis*), イイジマムシクイ *Phylloscopus ijimae*, シジュウカラ (亜種: シジュウカラ) *Parus cinereus* (*P. c. minor*), ウグイス (亜種: ウグイス) *Horornis diphone* (*H. d. cantans*), オオコノハズク (亜種: オオコノハズク) *Otus semitorques* (*O. s. semitorques*) の 8 種である.

これらの種は, 夏鳥のイイジマムシクイを除くと三宅島ではいずれも留鳥である.

調査地周辺での生息状況は, メジロ, コマドリ, ウグイスは, 周年生息しているが, アカコッコ, ヤマガラ, シジュウカラは秋季から冬季には生息個体数が春季から夏季に比べ少なくなる傾向がみられ, 島内の別の場所へ移動している可能性が高い. また, オオコノハズクは, 冬季のみ捕獲され, 姿, 鳴き声等も春季から秋季には確認できないため, 調査地及びその周辺は越冬地として利用しているものと考えられた. 再捕獲数は年による変動が大きく, また, 種により異なるが最低 1 個体から最大 6 個体についての情報が得られた (表 1).

以下に種別の捕獲状況と生存期間について述べる.

本稿で記載した生存期間は, 初放鳥から再捕

表 1. 鳥類標識調査で再捕獲された鳥類 8 種の生存期間（2015 年 -2025 年（2020 を除く）の 10 年間の記録から）。性に用いられた記号 M, F, U はそれぞれオス, メス, 不明を示す。齢に用いられた記号 J, A, U はそれぞれ幼鳥（飛翔できる）, 成鳥, 不明を示す。

Table 1. Lifespans of eight bird species recaptured in bird banding surveys (based on records from the ten-year period 2015 to 2025, excluding 2020). The symbols M, F, and U represent male, female, and unknown sex, respectively. The symbols J, A, and U indicate juvenile, adult, and unknown age, respectively.

種名 Species	新羽鳥数 Number of newly released birds	再捕獲数 Recapture count	再捕獲率 Recapture rate(%)	順位 Ranking	生存期間 Lifespan		初捕獲日 First capture 年月日 Year/Month/Day	再捕獲日 Recapture 年月日 Year/Month/Day	性 齢 Sex Age
					(年・月) Years-Months	足環番号 Ring number			
ツバメ <i>Turdus celaneps</i>	52	7	13.5	1	3y-0m	05B- 89651	2015/5/4	2018/5/5	M A
				2	2y-4m	05B- 89666	2021/4/2	2023/8/5	M A
				3	2y-1m	05B- 89677	2023/5/4	2025/6/19	M A
				4	2y-0m	05B- 89643	2015/5/4	2017/5/4	M A
				5	1y-1m	05B- 89664	2021/4/2	2022/5/4	M A
				6	0y-9m	05B- 89678	2023/8/4	2024/5/4	F A
				7	0y-7m	05B- 89674	2022/12/27	2023/8/6	F A
メジロ (亜種:オキナギメジロ) <i>Zosterops japonicus</i> (ssp.: <i>Z. j. stejnegeri</i>)	109	6	5.5	1	4y-10m	01E- 54763	2019/7/13	2024/5/2	M A
				2	3y-7m	01E- 54669	2016/5/4	2019/12/28	M A
				3	2y-10m	01E- 54814	2023/8/6	2025/6/20	F A
				4	1y-10m	01E- 54758	2019/7/13	2021/4/3	F A
				5	0y-7m	01E- 54730	2018/9/23	2019/5/4	M A
				6	0y-7m	01E- 54804	2023/5/3	2023/12/27	M A
ヤブシロ (亜種:オキナギヤブシロ) <i>Sittiparus varius</i> (ssp.: <i>S. v. onstoni</i>)	24	5	20.8	1	3y-1m	03C- 12538	2021/4/2	2024/5/4	F A
				2	2y-0m	03C- 12546	2022/5/3	2024/5/2	M A
				3	1y-4m	03C- 12575	2024/5/4	2025/9/13	M A
				4	0y-9m	03C- 12528	2018/9/24	2019/7/13	M A
				5	0y-8m	03C- 12527	2018/8/17	2019/5/4	F A
ヒメツバメ <i>Phylloscopus linnae</i>	49	4	8.2	1	7y-0m	01E- 54708	2018/5/4	2025/5/4	M A
				2	3y-0m	01E- 54704	2015/5/3	2018/5/4	M A
				3	2y-1m	01E- 54806	2023/5/4	2025/6/19	M A
				4	2y-0m	01E- 54701	2017/5/5	2019/5/3	M A
ツバメ (亜種:ツバメ) <i>Parus chinensis</i> (ssp.: <i>P. c. minor</i>)	20	3	15.0	1	2y-11m	02X- 72658	2020/5/5	2023/4/1	M A
				2	1y-0m	02X- 71638	2016/5/4	2017/5/4	F A
				3	0y-10m	02X- 71671	2024/8/18	2025/6/19	F A
ツバメ (亜種:ツバメ) <i>Horornis diphone</i> (ssp.: <i>H. d. cantans</i>)	57	3	5.3	1	1y-1m	01E- 54815	2022/11/3	2023/12/27	F A
				2	1y-0m	01E- 54731	2022/11/28	2023/12/27	F A
				3	0y-9m	01E- 54796	2018/9/24	2019/7/13	M A
ツバメ (亜種:オキナギ) <i>Lanihora akahige</i> (ssp.: <i>L. a. tanensis</i>)	59	3	5.1	1	5y-4m	03C- 12534	2019/12/28	2025/5/5	M A
				2	1y-4m	03C- 12542	2022/4/2	2023/8/5	M A
				3	1y-1m	03C- 12566	2023/11/05	2024/12/29	M A
ツバメ (亜種:オキナギ) <i>Otus semitorques</i> (ssp.: <i>O. s. semitorques</i>)	3	1	33.3	1	3y-0m	09B- 17251	2019/12/29	2023/12/27	U A

※2020年は新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大により島へ渡航することができず、調査を実施できなかった。
※In 2020, due to the spread of COVID-19, it was not possible to travel to the island and therefore the survey could not be conducted.

獲までの期間であり、初放鳥までの期間及び再放鳥後の生存期間は不明であり、生存期間＝寿命とはならない。

1. アカコッコ

10年間で52個体を放鳥し、7個体を再捕獲した。再捕獲率は13.5%であった。

捕獲された個体は羽色、虹彩の色等の齢査定の結果から、いずれも捕獲の前年以前に巣立った個体であった。生存期間は7ヵ月から3年0ヵ月であった。吉安ら（2020）では、5年10ヵ月と4年1ヵ月の記録がある。再捕獲までの期間が最も長かったのは、2015年に放鳥され、2018年に再捕獲されたオスの成鳥であった。この個体は、初捕獲時に幼羽から成鳥羽に換羽後1年程度残の大雨覆先端のパフ斑（GC斑）がなかったことから、初放鳥時に1年以上生存していると考えられたため、4年以上生存している可能性が高い。

2. メジロ（亜種シチトウメジロ）

10年間で109個体を放鳥し、6個体を再捕獲した。再捕獲率は5.5%であった。生存期間は、7ヵ月から4年10ヵ月であった。吉安ら（2020）では、メジロで6年10ヵ月と6年1ヵ月の記録がある。本調査地において、再捕獲までの期間が最も長かったのは、2019年7月に放鳥され、2024年5月に再捕獲された個体であった。この個体は、初捕獲時に総排泄口が突出していたことから、その年に巣立ちをした個体ではなく、前年以前に巣立ち、繁殖年齢に達しているオスの成鳥と考えられたため、再捕獲時には5年以上生存している可能性が高い。

3. ヤマガラ（亜種オーストンヤマガラ）

10年間で24個体を放鳥し、5個体を再捕獲した。再捕獲率は20.8%であった。生存期間

は、7ヵ月から3年1ヵ月であった。吉安ら（2020）では、ヤマガラで、10年7ヵ月と10年6ヵ月の記録がある。本調査地において、再捕獲までの年数が最も長かったのは、2021年4月に放鳥され、2024年5月に再捕獲されたオスの成鳥であった。この個体は、初捕獲時に成鳥であったため、3年以上生存している可能性が高い。

4. イイジマムシクイ

10年間で49個体を放鳥し、4個体を再捕獲した。再捕獲率は8.2%であった。いずれの個体も初捕獲が5月であり、捕獲の前年以前に巣立ち、越冬地へと渡り、再度三宅島へ戻って来た個体であるため、初捕獲時に1歳以上の年齢となっていると考えられた。生存期間は2年0ヵ月から7年0ヵ月であった。吉安ら（2020）では、3年10ヵ月と2年9ヵ月の記録があり、今回の報告により大幅に更新された。本調査地において、再捕獲までの年数が最も長かったのは、2018年に初捕獲され、2025年に再捕獲されたオスの成鳥であった。この個体は、初捕獲が5月であり、前年以前に巣立った成鳥と考えられたため、7年以上生存している可能性が高い。

5. シジュウカラ

10年間で20個体を放鳥し、3個体を再捕獲した。再捕獲率は15.0%であった。生存期間は、0年10ヵ月から1年11ヵ月であった。吉安ら（2020）では、7年11ヵ月と7年5ヵ月の記録がある。再捕獲までの年数が最も長かったのは、2021年に初捕獲され、2023年に再捕獲されたオスの成鳥であった。この個体は初捕獲時に虹彩の色等から前年以前に巣立った成鳥と考えられたため、2年以上生存している可能性が高い。

6. ウグイス

10年間で57個体を放鳥し、3個体を再捕獲した。再捕獲率は5.3%であった。生存期間は0年8ヵ月から1年1ヵ月であった。吉安ら(2020)では、9年0ヵ月と6年11ヵ月の記録がある。本調査地において、再捕獲までの年数が最も長かったのは2022年に初捕獲され、2023年に再捕獲されたメスの成鳥であった。この個体は初捕獲時に虹彩の色等から成鳥と考えられたため、2年以上生存している可能性が高い。

7. コマドリ (亜種タネコマドリ)

10年間で59個体を放鳥し、3個体を再捕獲した。再捕獲率は5.1%であった。生存期間は、6ヵ月から5年4ヵ月であった。吉安ら(2020)では、コマドリで4年11ヵ月と4年0ヵ月の記録があるが、今回の記録はこれを更新するものである。本調査地において、再捕獲までの年数が最も長かったのは、2019年12月に初捕獲され、2024年5月に再捕獲されたオスの成鳥であった。この個体は初捕獲時に大雨覆先端のバフ斑がなく、前年以前に巣立った成鳥であると考えられたため6年以上生存している可能性が高い。

8. オオコノハズク (亜種：オオコノハズク)

10年間で3個体を放鳥し、1個体を再捕獲した。再捕獲率は33.3%であった。生存期間は、3年0ヵ月であった。この個体は初捕獲時に羽色、羽の形状、虹彩の色から見て成鳥であったため、3年以上生存しているものと考えられた。吉安ら(2020)では、オオコノハズクで8年10ヵ月と6年2ヵ月の記録がある。なお本種は冬季の11月及び12月にのみ捕獲されており、4月から10月にかけては捕獲され

ず、また、鳴き声、目視による確認もないため、調査地及びその周辺を冬季のみ利用している可能性が高い。

以上のように、イイジママシクイ、コマドリの生存期間が吉安ら(2020)から更新されたこと、イイジママシクイは、海外と日本を往来する渡り鳥でありながら、これまで確認されていたよりも長い期間生存し、繁殖を継続している可能性が示唆されたことは鳥類標識調査の成果の一つであると考えられる。今後も三宅島における鳥類標識調査を継続することにより、三宅島に生息する鳥類の生存期間の更新が期待できるものと考えている。

謝辞

新潟ライチョウ研究会、NPO法人新潟ワイルドライフリサーチの長野康之氏には、ノジコ調査の雑談時に本報告について発表することを勧めていただいた。2名の匿名の査読者には、様々な有益な指摘をいただいた。山階鳥類研究所保全研究室の方々には、捕獲許可の取得及びデータの利用にあたりお世話になった。これらの方々に感謝いたします。

引用文献

- 深井宜男. 2017. オオコノハズク *Otus lempiji* の齢の識別について. 鳥類標識協会誌 29(1): 25-31.
- 環境省. 2025. 2023年鳥類標識調査報告書. 環境省以前環境局 生物多様性センター, 山梨.
- Svensson, L. (村田健訳 尾崎清明・茂田良光監訳). 2011. ヨーロッパ産スズメ目の識別ガイド. 文一総合出版, 東京.
- 山階鳥類研究所. 鳥類標識マニュアル(改定第11版) 2008年度版. 2009. (財)山階鳥類研究所, 鳥類標識センター, 我孫子.
- 山階鳥類研究所. 2002. 鳥類アトラス Atlas of Japanese Migratory Birds from 1961 to 1995. (財)山階鳥類研究所, 我孫子.

- 吉安京子・森本元・千田万里子・仲村昇. 2020. 鳥類標識調査より得られた種別の生存期間一覧 (1961–2017年における上位2記録について). 山階鳥類学雑誌. 52(1): 21–48.
- 米倉浩司・梶田忠. 2003-. 「BG Plants 和名－学名インデックス」 (YList). <<http://ylist.info>> 2025年12月26日閲覧.

Lifespan of eight bird species inhabiting Miyake-jima Island, Izu Islands

Akio Nakano*

Nakano Natural Environment Survey Office. 3-37-10 Sengoku, Bunkyo-ku, Tokyo

I report on the lifespan of eight species of birds based on recaptures during a bird banding survey on the Miyake-jima Island, Izu Islands, Japan. Recapture records were obtained for eight species: *Turdus celanops*, *Zosterops japonicus* (subspecies: *Z. J. Stejneger*), *Sittiparus varius* (subspecies: *S. v. owstoni*), *Phylloscopus ijimae*, *Parus cinereus*, *Horornis diphone*, *Larvivora akahige* (subspecies: *L. a. tanensis*) and *Otus semitorques*. Among these, the longest lifespans recorded to date were for *Phylloscopus ijimae* and *Larvivora akahige*. The survey will continue, with additional records expected to further clarify species longevity.

Keywords: Bird banding survey, eight bird species, lifespan, recapture, Miyake-jima Island.

*: YRX02037@nifty.ne.jp